

館蔵品展

野間仁根・傳治
親子の
ファンタジー

2021年2月2日(火)

~4月18日(日)

休館日
開館時間
入館料

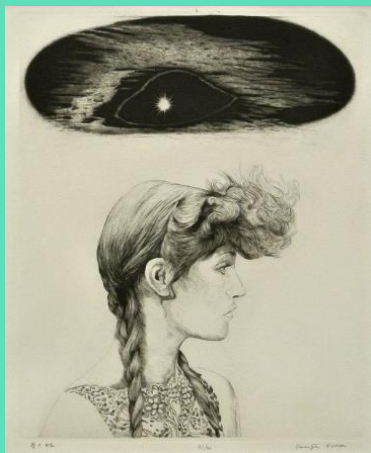
月曜日(祝日の場合は直近の平日)
9:00~17:00(入場は16:30まで)
一般310円・学生160円
高校生以下または18歳未満無料
※大人団体(20名以上)250円
※65歳以上の方250円
※障害者手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料

上: 野間仁根『昆虫演奏会
(トボ、バツ、テトリ虫)』

左: 野間傳治『海の幻想』
右: 野間傳治『空と子供』

野間仁根  バラのミュージアム
(今治市吉海郷土文化センター)

〒794-2103
愛媛県今治市吉海町福田1290番地
TEL/FAX (0897) 84-2566



野間傳治『星の娘』



野間仁根『幸福の森』



野間仁根『魚の散歩』

「野間仁根・傳治 親子のファンタジー」では、野間仁根・傳治親子の幻想的な世界が描かれた作品を展示いたします。野間仁根は、森や海、空等の自然界を舞台に、動物や昆虫、人間、星座などを数多く描きました。その作品は写実的なものだけでなく、非現実的で童話の世界のような情景が描かれたものが数多くあります。楽器を演奏する虫たち、海の中を楽しく散歩する魚、海辺にたたずむピエロ等、鮮やかな色彩でいきいきと描かれた作品は、見る人を不思議で楽しい世界に誘ってくれます。

野間傳治は仁根の長男として生まれました。戦時中、仁根とともに越智郡津倉村（現今治市吉海町）に疎開していた際には、親子で島中を巡って絵を描きました。この時に父から風景画デッサンの描き方を習ったといひます。その後、欧米への留学で銅版画の技術を習得し、米国で講師を務めました。その影響か、描かれた作品には西洋の宗教画のように幻想的な雰囲気が漂うものが多くあります。

技法も作風も異なる親子それぞれのファンタジーの世界をお楽しみください。

野間 仁根

Noma Hironé
(1901-1979)

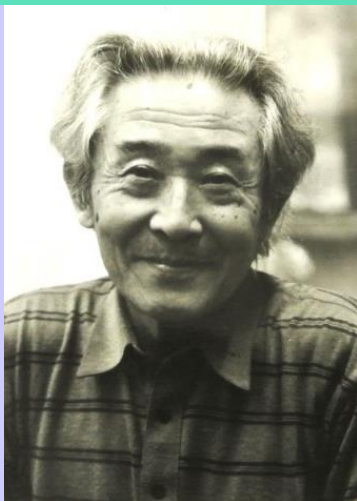


◆略歴◆

- 1901年 2月5日越智郡津倉村（現今治市吉海町）に生まれる。
- 1919年 伯父を頼り、母と上京。
- 1920年 川端画学校で学び、東京美術学校（現東京芸術大学）に入学。
- 1924年 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。
- 1925年 東京美術学校卒業。
- 1928年 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。
- 1929年 第16回二科展で「ぜ・ふうるむうん」が二科賞受賞。
- 1931年 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
- 1932年 津倉村に於いて志那と結婚。
- 1933年 二科会会員に推挙される。
- 1944年 郷里（津倉村）に疎開。軍の命令で二科会解散。
- 1945年 二科会が再建され、入会。
- 1955年 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。
- 1979年 12月30日、78歳で逝去。吉海町の福蔵寺に眠る。

野間 傳治

Noma Denji
(1935-2005)



◆略歴◆

- 1935年 仁根の長男として東京都に生まれる。
- 1958年 東京芸術大学卒業。
- 1958-65年 エコール・ド・東京展に参加。
- 1960-62年 仏国へ留学。銅版画技法を学ぶ。S.W.ヘイター氏に師事。
- 1963-64年 米国へ留学。
- 1964-65年 米国にて銅版画講師を務める。
- 1965年 一陽展第11回展覧会で青麦賞受賞。
- 1966年 日本美術家連盟 版画部会員となる。
- 1969年 一陽会会員に推挙される。
- 1987年 一陽会版画部委員に推挙される。
- 1984-93年 鷹の会展に油画を出品。
- 1988-99年 現代美術展等に油画を出品。
- 2005年 6月20日、70歳で逝去。父、仁根と同じ墓所に眠る。

◆アクセス◆

愛媛県側から

- [自動車] しまなみ海道大島南ICから約10分
- [バス] 松山市駅／今治駅より
大三島行き高速バスにて「吉海支所」下車、
バス停より徒歩15分

広島県側から

- [自動車] しまなみ海道大島北ICから約10分
- [バス] 広島バスセンター／福山駅前より
しまなみライナーにて大島BS下車、島内路線バスに乗換
「幸（さいわい）」下車、バス停より徒歩10分

